

平成 24 年度 第 6 回日本生物物理学会運営委員会議事次第

日時：2012 年 11 月 17 日（土）13：00～

場所：新大阪丸ビル本館 4 階 A405 号室

出席者： 難波、石島、由良、大沼、須藤、高田、野地、原田、村上、山下（敦）、神取、瀧ノ上、出村、政池、永井、根岸、林、本間、七田、山下（高）、石渡、相沢、片岡、垣内

報告事項：

1. 平成 24 年度年会報告（本間）：報 1

本間年会実行委員長より、本年度の名古屋年会の報告があった。最終的な参加者数は、事前参加登録 979 名、当日参加登録 468 名の合計 1447 名となった。発表演題数は、一般発表（ポスター）581 件、一般発表（口頭）285 件、シンポジウム 102 件であった。

年会の準備に関しては、基本的には、エーイー企画が運営に慣れており、多くを任せることができたので良かった。

クレジットカードによる正会員の登録は全体の 3 分の 2 の人数である参加登録 364 名で、郵便振替で参加登録は 193 人であり、クレジットカードの利用者が多かった。システムの費用はかかるが、利便性を考えると今後も継続するのが良いのではないか。特に、海外在住の参加登録者にはクレジットカードによる支払が遥かに便利である。

2. 平成 25 年度年会準備状況（七田・山下（高））：報 2（当日配布）

七田年会実行委員長より、H25 年度京都年会の準備状況が報告された。京都年会の場合、会場費の支出が大きいが、これは会場費にいろいろな費用が含まれているからである。したがって、開催上大きな問題はない。

年会実行委員の山下高廣氏から、年会準備状況の詳細の報告があった。実行委員は 24 名に決まった。年会ホームページは、シンポジウム募集案内の掲載時に正式に公開する予定である。次回の年会では、シンポジウムを 2 時間半枠で 24 件開催し、一般発表は全てポスター発表とする。1 月中旬にシンポジウムの締切、実行委員会を開催し、シンポジウム数の調整、2 月上旬の第 1 回運営委員会の議題に挙げる。生物物理誌・第 2 号（2 月中旬締切）に掲載する。ポスターと展示は同じ部屋とし、展示企業にフレンドリーなレイアウトにする。

懇親会は宝ヶ池プリンスホテルで行うので、懇親会費だけでは赤字になりそうであるため、年会自体の予算から補填できないか検討している。また、非会員の事前登録を可能にすることを検討している。年内に中西に連絡すれば可能である。非会員の事前登録のメリットとしては人数把握が挙げられ、デメリットとしては予稿集の事前発送数の増加がある。しかし、事前発送に関しては、非会員の人のみ年会当日受付デスクでの受け取りにすることで経費を抑えることができる。

演題登録については、英語の抄録を従来の半分（800 字程度）にすることで読みやすくすることを検討している。また、予稿集については、抄録の本文部分の印刷はなくなり、紫ページのみ印刷することになる。利便性のため、ポスターに関しては目次のみ入れることにする。このような簡素化により、100 万円程度の経費削減が可能である。

託児所は従来通りに設置を行う方向で進めている。

公開シンポジウムは年会前日の 10 月 27 日に京大芝蘭会館で開催を予定している。今回の年会では、口頭発表はシンポジウムのみで、一般発表は全てポスターのみという構成になる。

PDF 予稿集に関する議論があった。予稿集の PDF 化をした場合、目次とのリンク機能を付けて利便性を上げる工夫をすべきである。なるべく演題タイトルの日本語版も登録するようにしてもらうようにし、読みやすいものにする予定である。会員システムからの予稿集のダウンロードについては、現在のダウンロード容量上限が 10MB なので、容量を増やしてもらうようにする。

3. 平成 26 年度年会準備状況（出村）：資料なし

出村委員より、北海道年会の準備状況の報告があった。2013 年 9 月 25-27 日を第一候補、10 月 2-4 日を第二候補として準備を進めている。最終的には、秋の物理学会の日程との兼ね合いで決める事になる。開催場所は札幌コンベンションセンターで調整している。具体的な内容は情報収集しながらさらに進めていく。

4. 平成 27 年度年会開催地について（難波）：資料なし

以前の運営委員会にて、金沢での開催という要望が多かったので、金沢大学の安藤氏に開催を要請した結果、場所を検討しつつ引き受けただけたとの報告があった。

5. 出版委員会報告（石島）：報 5

石島出版委員長より、出版委員会の報告があった。まず、邦文誌に関して報告された。現在、邦文誌編集委員から、BIOPHYSICS 誌への推薦記事が 4 つある。投稿規定の変更、一般会員からの記事の提案、書評欄の創設、依頼状の修正案などが検討されている。また、地区編集委員からの提案は、テレビ会議等で意見を伺うような方法を考えている。分野別専門委員からの記事提案があって、それを編集委員が審査するという形もあるのではないかとの意見があった。今までも一般からの投稿や推薦も可能であったのだが、仕組がしっかりとしていなかつたため機能していなかつた。今回の改革で、より多く一般からの記事の受付が可能になるはずであるとの議論があった。

石渡 BIOPHYSICS 編集委員長より、BIOPHYSICS 誌について報告があった。現在投稿数は、16 件（うち依頼は 6 件）、掲載数 16 編となっている。

BIOPHYSICS 論文賞に加えて、BIOPHYSICS papers of the year の創設を検討している。本件について、HP に掲載し、会員にアピールすることが説明された。

編集委員の改選についての説明があった。現委員 +3 名を改選する（議題 3）。

神取委員より、生物物理学会として、文科省科研費（平成 25 年度国際情報発信強化計画調書）の予算申請を行ったことが報告された。

相沢 HP 編集委員長より、HP 編集委員会について説明があった。Twitter、Facebook を利用しての情報発信を始めた。また、要旨集のダウンロードができるようになった。ニュースを時系列ではなく、カレンダー形式で掲載できるよう準備をしているとの報告があった。分野別専門委員による啓蒙ページ原稿作成の依頼と HP への掲載準備を行っているところである。現時点では 39 件の啓蒙ページ原稿が分野別専門委員から提出済みである。編集委員長については、12 月中に由良委員に交代し、引き継ぎを行う予定。

アクセス解析についての報告があった。アクセス数は増加傾向である。会員に情報サイトとして活用されていることを示すものであるとの説明があった。

6. 男女共同参画・若手問題検討委員会報告（由良）：**当日配布**

7. 男女共同参画学協会連絡会報告（由良）：**当日配布**

6 および 7 まとめて、由良男女共同参画・若手問題検討委員長より報告があった。

現在、男女共同参画の大型アンケートが実施中であり、5408 件の回答がある。目標は 3 万 -5 万件なので、現時点では少なすぎる。また、生物物理学会員の回答者は 240 名であるが、目標は 1500 名なので、さらに増やすべきである。

第 10 回シンポジウム（10 月 7 日、慈恵医大）が行われた。シンポジウムでは、各学会で、男女比や構成などについてのポスターが発表された。

年会の若手奨励賞についての反省と引き継ぎについて報告があった。受賞者の声を会誌で報告するなどの企画を検討している。今回の若手奨励賞選考の詳細に関しては、次の会誌の「談話室」に掲載されることが説明された。

今年度の年会の男女・若手のランチョンセミナーについての報告があった。セミナーでアンケートを取り、委員会で検討した。これを踏まえ、来年もキャリア関連のセミナーを開くのが良いのではないかという意見が出た。

8. e-naf 選挙管理システムについて（須藤・政池・神取・南野）：**報 8**

須藤委員から e-naf 選挙管理システムについて報告があった。利便性と投票率アップが可能になり、結果的に経費削減に役に立つとの説明があった。このシステムで、オンラインでできるメリットを生かすことを検討している。

9. IUPAB・ABA 関連報告（野地）：**報 9**

野地委員より、IPUAB・ABA について報告があった。まず、ワーキンググループの発足に関する報告があった。ワーキンググループのメンバーは、難波会長、野地委員（国際担当）、永井委員（国際担当）、原田委員、柳田氏、石渡氏、曾我部氏、片岡氏、瀬藤氏となった。中国（ラオ氏）が進める強いプレゼンスに対応するために対策を講じる。ワーキンググループとしては肅々と日本のプレゼンスを示すことが重要である。次期 IUPAB（ブリスベン・オーストラリア）では、日本人だけではなく、国際的な講演者を含むワークショップを企画することを検討している。

生物科学学会連合連絡会報告（難波）：**報 10**

難波会長から、生物科学学会連合の第 5 回定例会議が行われたことが報告された。生物物理学会からは曾我部氏が代表として出席した。議長が再選され、浅島誠氏が議長となった。連合会費が値上がりになったことが報告された。

10. 第 22 期日本学術会議生物物理分科会/IUPAB 分科会報告（難波）：**資料なし**

難波会長より 9 月初めに分科会があったことが報告された。学術会議による大型プロジェクトのマスタープランの作成の議論を行った。これは、国による研究所・研究施設設置の参考になる可能性がある。生物物理の分科会では、バイオイメージング&インフォマティクス研究センターに関する提案を行った。バイオインフォマティクス分科会でも同様の議論があるので、本件に関して、11 月初めに京都にて両分科会同士で話し合いが行われた。学術会議は、来年末までに具体的な提案を含めた報告書を提出する予定である。

11. 賞・助成金推薦委員会報告（由良）：報 12

由良賞・助成金推薦委員長より各賞の推薦状況の報告があった。

12. 世界結晶年(IYCr2014)日本委員会設立について（難波・石島）：資料なし

難波会長より、世界結晶年(IYCr2014)日本委員会設立について説明があった。ユネスコが世界〇〇年を決定しており、2014年は世界結晶年と定められた。結晶学会が中心となって、世界結晶年(IYCr2014)日本委員会の準備委員会が10月26日、東北大にて行われた。準備委員会に代理出席した石島委員より、本準備委員会に関して報告があった。ブラング・ラウエより50年周年のイベントとして行われる。

13. クリアファイル作成について（難波）：資料なし（ファイル案閲覧）

啓蒙用のクリアファイルの案が回覧された。本件について、野地委員から説明があった。毎年女子中高生のための夏の学校でクリアファイルを配布していたが（原田委員）、在庫不足になってきたため、従来のものを増刷するのではなく、新しいものを作成して印刷することになった。林委員から、より女子高生向けのキャラクターをあしらったデザインが良いのではないかとの意見があった。今回のファイルは、女子高生のためだけに配布するわけではないが、そのようなキャラクターのバージョンを追加しても良いのではないかとの意見が出た。

議題：

1. 次期会誌編集委員長の答申（石島）：議 1-3

石島出版委員長より次期会誌編集委員長選出に関する説明があった。2012年末までは、中村春木氏が委員長となっており、次期の委員長を選出する必要がある。候補者を募った結果、原田慶恵氏（京都大学・iCeMS）が次期会誌編集委員長になることが決まり、運営委員会にて承認された。

2. 次期会誌編集委員・編集地区委員の選出（石島）：議 2-1・議 2-2

石島出版委員長より、次期会誌編集委員として林氏（京大）、村田氏（千葉大）、夏目氏（九大）、秋山氏（分子研）、城所氏（長岡技科大）、岡田氏（理研）を選出することが説明され、運委委員会にて承認された。

次に、次期会誌編集地区委員として北海道地区・寺本氏を留任し、関東地区・田端氏（東大）、中部地区・太田氏（名大）、中国四国地区・山下氏（岡山大）を選出することが説明され、運営委員会にて承認された。また、東北地区の編集委員を中村氏（東北大）に交代することもあわせて承認された。

3. BIOPHYSICS 編集委員の選出（石島）：議 3

石島出版委員長より、次期 BIOPHYSICS 編集委員として桑島氏（自然科学研究機構）、石森氏（北大）、小松崎氏（北大）を選出することが説明され、運営委員会にて承認された。

4. 平成 25 年度分野別専門委員の選出（石島）：議 4

石島氏より、平成 25 年度分野別専門委員の選出に関して報告があった（詳細は議 4）。また、新たに 4 分野が追加・分類され、分野別専門委員が選出されたことが報告された。本件について運営委員会で承認された。

5. 法人化について（片岡）：議 5

法人化について、片岡法人化実行委員長から説明があった。事務局は大阪大学に置くことに決まった。大阪大学に関係ない法人・関係ない人が常駐することに問題がないか確認した結果、大学・文科省共に大学の判断で良ければ問題はないことが分かった。常駐に関する対外的な問題をクリアにするため、大阪大学に賃貸契約金を支払うことが提案され、運営委員会にて承認された。また、これに伴い、大阪大学（大阪府吹田市）を法人化後の生物物理学会の事務所住所として登記することが提案された。

事業年度を、5月始まり4月終わりにする提案があった。この場合、7月31日までに社員総会を行わなければならない。社員総会から社員総会までが役員や会長の任期となる。

いつ法人化を行うかについても問題があることが指摘された。2014年5月に法人化した場合、2014年の1-4月の会費はどのように請求するか、移行期の役員の任期はどうなるのか、法人化・役員任期はいつから始まるのかについて議論がなされた。また、法人化に際しては、現在の生物物理学会が一旦無くなり、新しく生物物理学会が立ち上がることになり、会則には総会に諮って解散すること書かれているので、次の京都の年会で、解散時期を発表し、総会に諮る必要があることが指摘された。設立時の会長を誰にするかについてもさらに検討が必要である。

まず、片岡氏より、5月スタートのシミュレーションが示された（議5）。この案では、難波現会長の任期を4ヶ月延長し、七田次期会長の任期を3ヶ月延長することを検討している。この場合、会則の変更が必要になる。これに関しても、さらに議論が必要である。法人化時期に関しては、まだ考えなければならない問題があるが、ワーキンググループで進めていくこと、大阪大学に事務局を置くこと、事業年度が5-4月となることが運営委員会にて承認された。

6. 会員数増加キャンペーン・新会員紹介キャンペーンについて（須藤・政池・神取）：議 6

須藤委員から、会員数増加キャンペーン・新会員紹介キャンペーンについて説明があった。新会員紹介キャンペーンとは、既会員からの紹介があると入会金無料となる企画である。このキャンペーンを引き続きしていくことが承認された。

7. 滞納3年以上の会員の除籍と会員数の推移について（須藤・政池・神取）：議 7

須藤委員より、滞納3年以上の会員の除籍について説明があった。除籍対象者リストが示された（委員会後回収）。

8. 第2回 BIOPHYSICS 論文賞の募集について（難波）：議 8

第2回 BIOPHYSICS 論文賞の募集の文案が示され、承認された。なお、今年度は、第1巻-7巻に掲載されたものから選ばれることが確認された。

9. 平成26・27年度学会委員候補者推薦について（南野）：議 9

平成26・27年度学会委員候補者推薦の文案が示された。この文面に、委員が設立時社員になることを書かなければならないとの議論があった。この案を基に進めることが承認された。

10. 分子生物学会 Genes to Cells の表紙について（難波）：議 10

難波会長より、分子生物学会 Genes to Cells の表紙のデザインについて説明があった。Genes to Cells の表紙は芸術的な要素を取り入れつつ、科学的なモチーフを入れている。生物物理学会においても、表紙のデザインを検討する必要があるとの提案があり、運営委員会にて承認された。

11. 業務委託先について（難波）：議 11

難波会長より、歴代の業務委託先の説明があった。由良委員・相沢委員・伊藤氏（前副会長）を中心とした業務委託先に関するワーキンググループを設立することが提案され、運営委員会にて承認された。

連絡事項：

1. 次回運営委員会日程について（難波）

平成 25 年第 1 回運営委員会 2/9 (土) 13:00～

平成 25 年第 2 回運営委員会 4/13 (土) 13:00～

平成 25 年第 3 回運営委員会 7/13 (土) 13:00～